



小さな気づき

島根県立出雲高等学校 2年 神谷 和輝

今回のラオス研修でぼくは「教育」の大切さを学んだ。日本などの先進国では義務教育の下、ほとんどの子供達は当たり前のように学校に通い、様々な教科の知識や一般常識を自然と身に付けて成長していく。しかし多くの発展途上国ではそう簡単にはいかない。今回訪れたラオスには3つ大きな問題があった。生徒の卒業率の低さ、先生の指導力、そして教科書だ。進学率はかなり向上しているものの、途中で家庭の仕事の手伝いや兄弟の世話などの様々な理由で学校に通えなくなる生徒が多いのが現状だ。そして教育を担う教員自身も幼少期に十分な教育を受けられず、使用中の教科書の内容を十分理解していないようなケースもあり、結果間違っただけを次の世代へ伝えてしまうことも少なくないという。教科書は日本とは異なり、文字ばかりが多く、図や絵が効果的に取り入れられてない。教育分野を成熟させるためには、生徒が登校しやすく学び続けられる環境作り、教員の質の向上とより良い教科書の編纂が不可欠だと思う。

国際協力には、学校建設や物品調達など目に見えるものと、知識の伝授や今回の教育分野のように目に見えないものや見えにくいものがあることを知った。教育を充実させれば、高い専門性と技術力を身に付ける者が増え、個人の収入面の向上も見込める。そして確かな知識を持った人々の力が国の発展にもつながると思った。今後 ICT の有効活用も大きな可能性だと思う。さらなる教育分野での支援、協力活動が進んでいくことを願うし、自分自身ができることを考えていきたいと思う。